

(大阪東南部)

大阪・長原遺跡 ながはら

- 1 所在地 大阪市平野区長吉出戸八丁目
- 2 調査期間 N G O 四一三次調査 二〇〇四年(平16) 九月、
二〇〇五年三月
- 3 発掘機関 (財)大阪市文化財協会
- 4 調査担当者 杉本厚典
- 5 遺跡の種類 集落跡
- 6 遺跡の年代 旧石器時代、近世
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

調査地は長原遺跡東北部に位置する。

縄文時代中期頃の河成堆積によって形成された、南東から北西へ延びる出戸自然堤防の北東縁にあり、北ないし北東に向かって下がる斜面部に立地する。

調査地は弥生時代には居住域であったが、古墳時代後期から奈良時代にかけて、出戸自然堤防の縁辺に沿っ

て流れる河川の通り道となる。

木簡は第六b層を除去した排土の中から見つかった。第六b層はSD六〇一、SD六〇二を埋積した水成層であり、腐植物が比較的多く含まれていた。この地層は飛鳥時代の河川が埋没した上に形成されており、第六b層上位の第六a層（流路内堆積層）からは奈良時代の人面墨画土器が出土した。

第六b層の排土は約三㎡あり、これらを細かく碎いて他の削屑が存在するかどうかを調べた。土器の細片、腐蝕した植物片は出土したが、木簡は出土しなかった。

8 木簡の釈文・内容

(1) 十五束

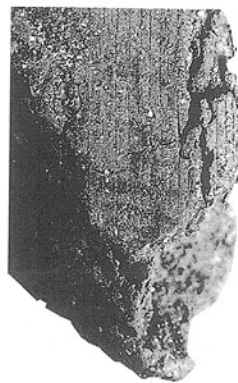
001

長さ一一〇mm幅一五mmを測る比較的大きな削屑である。赤外線撮影により「五束」の文字を確認することができた。また、この削屑に直接付着していた土に墨痕が転写しており、そこには「十五」と「束」の上部が認められた。これらのことから、「十五束」と書かれていたとみられる。

9 関係文献

（財）大阪市文化財協会『長原遺跡東部地区発掘調査報告』X（二〇〇七年刊行予定）

（杉本厚典、釈文 古市 晃・鳥居信子）



削屑の墨痕が転写した土

